

平成22年度事業評価シート(ソフト事業)

1 事業名等(Plan 1)

事業名	市史等編纂事業											
所属名	教育委員会事務局 文化財課 文化財グループ											
第七次総合計画	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして	分野	4	文化	基本 施策	1	郷土の歴史や伝統文化を守り 次代に伝える	施策	1	文化財などの保存・ 継承
予算科目	9	4	7	文化財	費	94783	市史編纂	事業				
	9	4	7	文化財	費	94799	地域文化財保存振興	事業				
					費			事業				
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等												
事業の実施主体 <input type="radio"/> 市 <input type="radio"/> 市以外→												
事業の実施方法 <input type="radio"/> 直営 <input type="radio"/> 指定管理 <input type="radio"/> 業務委託 <input type="radio"/> 団体等補助 <input type="radio"/> その他→												

2 事業の目的・概要(Plan 2)

目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために(対象)	一般市民	受益者 数	96,231 人
目的	対象をどういう状態にしたいのか(意図)	郷土の歴史を次代に伝える		
概要	事業の実施手法、手順	高山市史、国府町史の編纂		
概要	事業始期・終期	始期: 13 年度から	始期: 28 年度まで	設定なし
今年度の改善・改革ポイント 前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入 ・これまでの編集作業の成果報告				

3 事業費の推移・結果(Do)

区分		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
財源	総合計画計画額(当初)	31,000	31,000	5,334	5,500	25,000	
	総合計画計画額(計画額)	31,000	31,000	5,334	5,500	25,000	
	事業費	30,804	37,794	24,627			
	(計画・予算・見込・決算額)	26,131	30,389				
	国庫支出金	予算額					
		決算・見込					
	県支出金	予算額					
		決算・見込					
	地方債	予算額					
		決算・見込					
受益者負担	予算額						
	決算・見込						
繰入	予算額						
	決算・見込						
一般財源	予算額	30,804	37,794	24,627			
	決算・見込	26,131	30,389				
H17国勢調査 96,231 人 32,174 世帯 ※コスト→行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価							
コスト	受益者負担率(受益者負担/事業費)	単位 %	-	-			
コスト	市民1人当たりコスト(事業費/H17人口)	単位 円/人	272	316			
コスト	1世帯当たりコスト(事業費/H17世帯)	単位 円/世帯	812	945			
コスト	受益者1人当たりコスト(事業費/指標)	単位 円/人					
コスト	その他(空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出)						
コスト	市史等1冊あたりコスト	単位 円/冊					

【成果面】

活動・成果指標	活動指標 (投入した行政資源を使い、どんな活動を行ったか、どのようなサービスを市民に提供したかを表す指標)	指標名	刊行がなされた市史等の巻数					資料・出展 算出式	単位	巻
			平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度			
活動	目標値			2	0	1	1	1	→	
	実績値	1	6							
	達成率	-	-	0	#DIV/0!	0	0	0		
成果	目標値								成果の方向	
	実績値									
成果	目標値								成果の方向	
	達成率									

4 分析・評価(Check)

①事業の目的評価(事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価) (現状及び判定理由)	市史が以前に発行されてから年数が経過しており、合併した地区のものも併せて新しい市史刊行への市民要望が高まっている。			目的評価	B
	A:非常に高い	B:高い	C:低い	D:非常に低い	
②コスト面評価(事業費の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価) 該当項目「1」入力(注:平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)					
減少	維持	1	増加	項目 ②コスト面	
(判定理由) 刊行計画に合わせて、事業予算を組む必要がある。					
③成果面評価(活動指標・成果指標から成果面を評価) 該当項目「1」入力(注:平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)					
拡大	維持	1	減少	項目 ③成果面	
(判定理由) H21年度までに国府町史5巻、久々野町史4巻を発刊し、H22年度は国府町史2巻の発刊を予定するなど、全体計画に基づき、計画的に実施している。高山市史についても、史料整理、執筆作業を進めている。					
コスト・成果ポジション					
E					
第3水準					

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」	→ I 「良い」	良好な水準を維持
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」	→ II 「やや良い」	「I」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」	→ III 「普通」	「II」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」	→ IV 「やや良くない」	「III」の水準に向けた改善が必要
目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」	→ V 「良くない」	「IV」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要

分析・評価(Check)により明らかになった課題・問題点

編纂作業により蓄積された成果の積極的な活用

5 今後の方向性(Action)

評価結果に対する改善提案(下記チェック)	現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・継続 <input checked="" type="checkbox"/> 終期設定 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/>
活動の方針	全巻刊行まで継続して進めていく必要がある。編纂作業により蓄積された成果を、市民を対象とした講演会等の開催や、頒布用リーフレット等での積極的な活用を図る。
次年度の実施方針	新高山市史の編纂作業

一次評価 主管課	III
判断の理由	全体計画に基づき、計画的に実施しており、高山市史についても資料整理、執筆作業を進めている。

総合評価	高 中 IV
判断の理由等	「III」以上の水準に向けた改善が必要 市史等の編纂作業の重要性は疑いがないが、多額の予算・労力をかけて作成するにもかかわらず、その活用はごく一部に限られているのが現状である。そのため、編纂の段階から市民を巻き込み本事業の重要性を広く市民に知ってもらうことが重要である。読みやすく判りやすい市史等となるよう努めるとともに、発行した市史等についてはホームページで公開するなど、多くの人たちに見てもらえる手法を検討する必要がある。